

産学連携学会 のご案内

産学連携学会

Japan Society for Intellectual Production

プロメテウスの火

人類は火とそして智恵を授かり、
しかし未来を知る能力を失った。
代わりに得たのは、希望であった。
今、私たちは破壊と創造の火を燃やす。

産学連携学会の目的

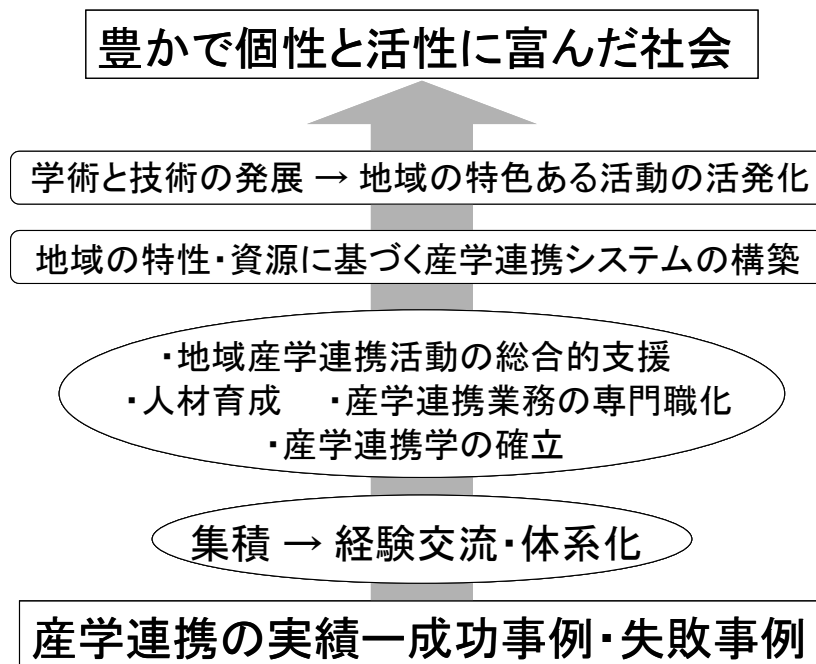
本学会は産学連携に関心を有する全ての方々を対象とし、産学連携に従事する際の力量の涵養、地域産学連携活動の総合的支援に関する事業を遂行するとともに産学連携業務の専門職化を促進します。

本学会はこれらの活動を通じて、産学連携学の確立及び産学連携自体を発展させることにより、我が国の学術や技術の発展を促進し、もって地域が特色ある活動を活発に行う豊かで個性と活性に富んだ社会をつくりあげることに寄与することを目的とします。

- 地域産学連携活動の総合的支援
- 産学連携業務の専門職化
- 産学連携学の確立

本学会は産学連携に関する諸課題を専門的実践者の立場から取り扱うべく、産学官の学識経験者や実務家などが広く交流し、相互に啓発、支援しあう場となります。

産学連携関係者および広く社会全体からの「産学連携学会」への参加を望みます。



産学連携学会の分野

「産」と「学」は異なった目的と歴史を持っています。この二つを連携し融合するために考えなければならない問題と、それらに関する実践例が数多くあります。以下にその項目といくつかの具体的な例を掲げます。

1. 産学連携のためのシステム

- ・リエゾンオフィス
- ・TLO
- ・インキュベーションラボラトリー
- ・ビジネススクール
- ・資金援助機構
- ・ベンチャーキャピタル

2. 産学連携のプロセス

- ・コーディネート
- ・知財マネジメント
- ・プロジェクト形成
- ・技術移転
- ・ベンチャー起業
- ・産業クラスター形成
- ・地域連携

3. 産学連携教育

- ・MOT
- ・MBA
- ・インターンシップ
- ・産学連携学の形成

4. 産学連携のための政策

- ・技術移転政策
- ・知財戦略
- ・戦略プロジェクト
- ・科学技術政策と産業振興政策の連携

5. 知財の活用

- ・知的生産サイクル
- ・基礎研究と特許
- ・利益相反
- ・発明の対価

6. 企業イノベーションと学との連携

- ・イノベーションのプロセス
- ・開発研究と大学

7. 比較産学連携論

- ・産業構造と産学連携手法
- ・地域の特性と戦略的分野設定

8. 産学連携社会学

- ・産と学の間コンフリクト
- ・産学連携の構造
- ・持続的な産学相互作用の形態

活動概要

活動1 地域連携活動の総合的支援

[ねらい] 地域経済の活性化をはかる諸活動の総合的な支援。各地域の特色を生かし各地域の連携機関・組織を中核に、全国的な支援活動を総合的に行います。

人材、資金、情報、さまざまなノウハウなど振興策の諸側面の支援を行います。地方の振興を全国ネットで支援します。

[活動内容]

- ・ 地域連携活動を行う人々と組織の支援
- ・ これらの活動を補完し、さらに高度化・拡大し地域活性化に寄与
- ・ 具体的には、
 - 情報：事業ニーズと製品マーケット、技術シーズと技術ニーズの提供・紹介
→データベース化
 - 人材：各種連携事業専門家の紹介・派遣。研修交流活動の支援
 - 資金：競争的研究助成金などの獲得支援
- ・ 長期的なビジョンに立った地域産業の育成とマーケット拡大の施策構築

活動2 産学連携業務の専門職化

[ねらい] 産学連携の推進には、これに係わる専門的な人材が不可欠です。
本活動では、この専門職領域を確立し、その人材の確保と技能の向上を狙いとします。

[活動内容]

- ・ 計画的・継続的人材育成／スキルアップ（研修事業）
- ・ 認定資格制度構築
- ・ 産学連携諸機関の全国ネットワーク形成
- ・ 産学連携に関する情報交換・相互啓発、共通課題の抽出と解決
- ・ 技術移転事例などに関する成功事例・失敗事例の集蓄積と分析、共通資産としての活用

活動3 新しい学問領域「産学連携学」の確立

[ねらい] 「産」と「学」とに象徴される技術開発・研究開発の様々な役割と異なる機能を明らかにします。これらの連携によるイノベーションの推進と新産業創成における、諸側面の学術的検討と普遍化を目的とする産学連携学の確立を目指します。さらに、これを対象とする研究者の育成と系統的教育実施への展開をいたします。

[活動内容]

- ・ 産学連携に係わる各種課題の学術的調査・分析・評価
- ・ 研究集会、学術研究大会の開催
- ・ 学術誌、学会誌の発行
- ・ 各種セミナー、シンポジウムの開催
- ・ 人材育成システムの調査研究
- ・ 産学連携の制度などに関する政策提言
- ・ 産学連携に関する学術書・啓蒙的著作などの発行

第5期事業計画

1. 学術活動

【全国大会の開催】

年1回の開催とし、シンポジウムを併設しています。

【学会誌の刊行】

年2回刊行しています。特集と投稿からなり、後者は「論文」「短報」「ノート」などのカテゴリーに分かれています。産学連携に関する理論的構築、産学連携成功事例解析、新しい産学連携手法の提案など広い分野における産学連携活動を会員がアピールする専門誌です。学問体系の確立には、幅広い分野の会員からの投稿が求められています。

【ニュースレター／メーリングリスト】

ニュースレターを年間数回発行し、会員との情報共有を強化します。会員が投稿できるメールニュースを設置しており、イベントの連絡にも活用いただけます。

【HPの充実】

本会の窓口であるHPを積極的に活用し、会員間の活動の活性化を支援します。会員の大学等における産学連携関連行事の案内も広く掲載します。

2. 事業活動

(1) 人材養成・成果公開

【シンポジウム】

産学連携学にもとづく新しい産学連携活動を提起し、シンポジウムとそこでの議論をふまえて社会的に訴求する。実務に裏付けられた学問体系、学問体系に裏付けられた実務を同時に追求する。分かりやすい議論と地域における開催を推進する。

【講習会・講演会】

産学連携学を中核とした産学連携体制の構築、マネジメントの論理・実践による手法など地方における新しい産学連携構築に向けた講習会や講演会などを行う。

(2) 地方における産学連携活動の活性化

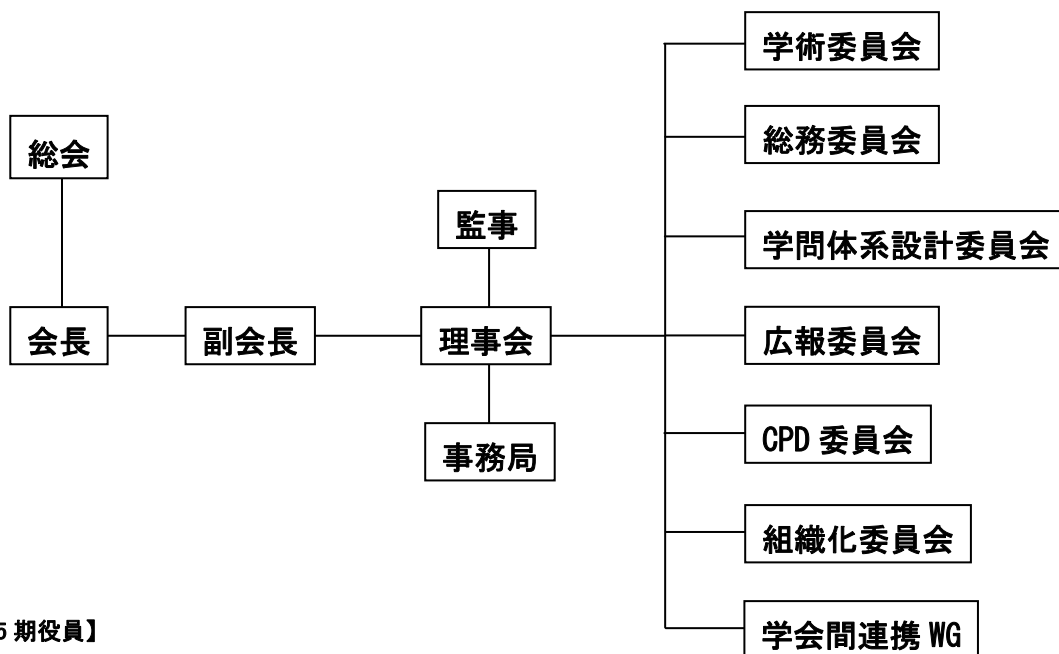
【地域産学官連携活動】

地域の産学連携機関と連携した講演会、討論会を開催し、地域産学連携関係者との意見交換を通じて地方に質の高い産学連携の推進を支援する。

【支部設立活動】

地域大学や中小企業との学術交流推進に向けた拠点作りを推進する。支部を中核とした大学の産学連携の共同活動、広域情報網を活用した知的財産活用体制の構築など産学連携活動様式の変革を支援する。

第5期組織図および役員



【第5期役員】

1) 運営組織

会 長: 伊藤正実(群馬大学)

副 会 長: 川崎一正(新潟大学)

理 事: 足立和成(山形大学)、荒磯恒久(北海道大学)、石塚悟史(高知大学)、伊藤正実(群馬大学)、大塚誠(桜美林大学)、小野浩幸(山形大学)、川崎一正(新潟大学)、菊地博道((独)科学技術振興機構)、木村雅和(静岡大学)、桑江良昇((株)東芝)、佐伯心高(九州工業大学)、佐藤三郎(佐賀大学)、長平彰夫(東北大学)、林聖子((財)日本立地センター)、松岡浩仁(信州大学)、安田耕平((株)キャンパスクリエイト)、山口佳和(千葉工業大学)、山本一枝((株)ウェザーコック)、湯本長伯(九州大学)

監 事: 小川薫(岩手大学)、黒田英一(法政大学)

事務局長 : 川崎一正(新潟大学)

会長顧問 : 佐竹 弘(徳島大学)

学会顧問 : 平尾 敏(野村證券(株))

2) 委員会等

学 術 委 員 会 : ◎林聖子((財)日本立地センター)、○山口佳和(千葉工業大学)、荒磯恒久(北海道大学)、伊藤正実(群馬大学)、小野浩幸(山形大学)、川崎一正(新潟大学)、松尾純廣(大分大学)

総 務 委 員 会 : ◎川崎一正(新潟大学)、池田裕一((株)日本能率協会コンサルティング)、内島典子(北見工業大学)、大塚誠(桜美林大学)、北村寿宏(島根大学)、黒田英一(法政大学)、丹生晃隆(島根大学)、都甲吏恵(日本医科大学)、松岡浩仁(信州大学)

学問体系設計委員会 : ◎長平彰夫(東北大学)

広 報 委 員 会 : ◎伊藤正実(群馬大学)、今井貞子((株)KRI)、内島典子(北見工業大学)、中武貞文(鹿児島大学)、永富太一(香川大学)、山本佳世子((株)日刊工業新聞社)、李鎔璟(香川大学)

C P D 委 員 会 : ◎木村雅和(静岡大学)、伊藤正実(群馬大学)、川崎一正(新潟大学)、湯本長伯(九州大学)

組 織 化 委 員 会 : ◎伊藤正実(群馬大学)、桑江良昇((株)東芝)、佐伯心高(九州工業大学)、松岡浩仁(信州大学)、安田耕平((株)キャンパスクリエイト)、山本一枝((株)ウェザーコック)

学 会 間 連 携 W G : ◎主査 湯本長伯(九州大学)、伊藤正実(群馬大学)、小野浩幸(山形大学)、川崎一正(新潟大学)、丹生晃隆(島根大学)、林聖子((財)日本立地センター)

第10回大会担当理事: 石塚悟史(高知大学)

支 部 担 当 理 事 : 佐藤三郎(佐賀大学)

3) 学会支援者

顧問税理士: 土屋清人(税理士)

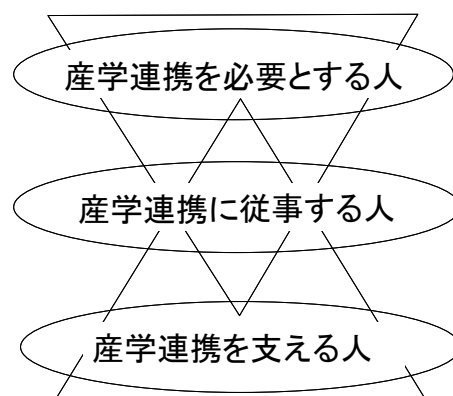
入会案内

『産学連携学会』への入会をご案内いたします。

本学会が会員として想定するのは：

- ・第一に「産学連携を必要とする」方々、即ち、研究成果の実用化・具現化を望む研究者、新製品・新事業実現のために大学など基礎研究機関の成果を求める民間企業や起業家などです。
- ・第二に「産学連携に従事する」方々、即ち、大学などのリエゾン担当教員、自治体や関係省庁派遣のコーディネータ、民間のコンサルタントをされておられる方々です。
- ・第三に「産学連携を支える」方々、即ち、行政、自治体、金融、ベンチャーキャピタル関連などに所属されておられる方々です。

産学連携学会会員



本学会は、産学連携に関する諸課題を専門的実践者の立場から取り扱うため、学識経験者や実務家などが広く交流し、相互に啓発支援しあう場となることが期待されます。本学会の趣旨にご賛同いただき多数の方々のご入会をお願い申し上げます。

(会員の種別と会費等)

	種別	入会金	年会費	論文投稿料	版下料	総会議決権
正会員	個人	5,000円 (ただし学生は1,000円)	12,000円 (ただし学生は2,400円)	不要	不要	あり
	団体	10,000円	36,000円	不要	必要	あり
準会員	個人	2,000円	6,000円	必要	必要	なし
	団体	一口2,000円 (一口以上)	一口6,000円(一口以上)	必要	必要	なし
賛助会員	個人	不要	一口24,000円(一口以上)	必要	必要	なし
	団体	不要	一口60,000円(一口以上)	必要	必要	なし
名誉会員	名誉	不要	0円	必要	必要	なし

※社会人学生の取り扱いについて：学籍を有していても社会人であればできるだけ正会員（または準会員）としての登録をお願いします。

○振込先 郵便貯金口座 番号：01750-4-116291
 名称：特定非営利活動法人 産学連携学会
 (トクテイヒエイリカツドウホウジン サンガクレンケイガクカイ)

◆誠に申し訳ありませんが、振込手数料はご負担下さい。

会員の特典

1. 学会誌が無料で手に入ります（少なくとも年一回発行）。
2. 学会誌に投稿できます(正会員は無料、準会員は有料)。
3. 研究発表会に学会員料金で参加できます。
4. 研究発表会にて、発表することができます。
5. 研究発表会后出版される講演集を無料で入手できます。
(少なくとも年一回発行)
6. 無料でニュースレターを受け取ることができます(年数回発行)。
7. 無料で電子メールマガジンを受け取ることができます。
8. 会員は、主宰あるいは関連する各種イベント(講演会、展示会、その他)に対して、学会の後援名義を求めることができます。
9. 会員は、主宰あるいは関連する各種イベント(講演会、展示会、その他)情報を学会公式 HP のイベントカレンダーに掲載して、全国にアナウンスすることができます。
10. 会員は、主宰あるいは関連する各種イベントに対する支援を学会に求めることができます(講師斡旋紹介、上記 HP カレンダー以外の手段によるアナウンス：学会誌への掲載、ニュースレターへの掲載、記者クラブ配付、電子メールマガジンへの掲載など)。

産学連携学会事務局

【事務局】

住所：〒182-0026 東京都調布市小島町1-11-6 エンケ102

(株)キャンパスクリエイティブ調布ブランチ内

TEL：050-5539-6604 FAX：042-490-5727

URL：<http://j-sip.org/> E-mail：j-sangaku@j-sip.org